

【青葉区】令和4年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年2月4日（金） 午前10時00分から午前11時20分まで
場 所	WEB会議室
出席者	【座 長】田中ゆき議員 【議員：6名】山下正人議員、横山正人議員、行田朝仁議員 藤崎浩太郎議員、大貫憲夫議員、平田いくよ議員
	【説明局員（青葉区）：28人】 小澤明夫区長、馬淵勝宏副区長、青木匡史福祉保健センター長、 吉田雅彦福祉保健センター担当部長、鈴木幸子青葉土木事務所長、 黒岩大輔青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	(1) 令和4年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）について
発言の旨	行田議員 10ページの「多世代交流による青少年育成事業」の実績と次の目標を教えてください。
	吉田福祉保健センター担当部長 今年には地域活動拠点に加えて地域ケアプラザに協力してもらい、実施している。中身としては、夏休み等休みの期間を使い、小学生に対し、中学生や高校生が勉強を教える位置づけで交流を図っている。 好評であったため、来年度は他の地域ケアプラザにも協力してもらい、5つの場所で子どもたちがお休みの時期に活動をしていきたいと思う。
	行田議員 利用者の人数は。
	佐々井学校連携・こども担当課長 利用者人数は、大場地域ケアプラザで夏休みに2回実施し、合計で小学生が12人、中学生・高校生・大学生のボランティアが8人、あおばコミュニティ・テラスでは夏休みと冬休みにそれぞれに2回ずつ実施し、夏休みは合計で小学生が17人、中学生・高校生・大学生のボランティアが15人、冬休みは合計で小学生が19人、中学生・高校生・大学生のボランティアが7人となっている。 春休みにも実施しようと計画している。
	行田議員 16ページで「ペット同行避難訓練」が10拠点予定されていて、うち4拠点で「支援キット」の貸与が行われるとのことだが、「支援キット」とはどのようなものか。
	前橋生活衛生課長 防災拠点にはペットの資機材がそろっていない。例えば、ペットを収容するためのロープや雨よけ風よけのテント、受付用の筆記具などが無い。それらの機材を「支援キット」として、訓練をしている拠点を中心に貸し出して行く予定。また、実際に災害があった時にも使ってもらおうと考えている。
	行田議員 健康福祉局の予算説明の中で、外国人の結核が増えていて、その予算が増えているとの話があった。青葉区における外国人の結核についての情報はありますか。
	青木福祉保健センター長 青葉区においてはここ数年において増えている感じはないが、毎年ある程度は発生している。最近の傾向としては、青葉区に働きに来ている人や勉強をしに来ている人が中心となっている印象がある。

藤崎議員	<p>一つ目、11ページの「シニアのためのところと身体健康調査」だが、どのような調査をするのか。調査した結果をどのように落とし込んでいくのか。昨年あざみ野でも色々調査を行っていたので、他のアンケート調査とも比較できると思うので、その辺りの考え方を聞きたい。</p> <p>二つ目、25ページの「プロボノ実践講座」は、「地域における起業等支援事業」からの転換ということだが、具体的に何を狙っていくのか。青葉区内でもいろいろなプロボノ活動が展開されている中、既存の人たちの掘り起こしをしていくのか、新たなプロボノを集めてくるのか。</p> <p>三つ目、31ページの「青葉ブランド事業」において認知度向上に取り組むとのことだが、しばらく募集自体が行われていない。それぞれ魅力のある店だが、一度選ばれたきり、その後他の店が選ばれる機会がない。今後は新しい店は増やさないで、既存の店の告知のみを行っていくのか。</p> <p>四つ目、32ページの「青葉6大学連携事業」の「学生による区の魅力発信事業」は、大学生が取材を行っていくのは非常に良いと思うので、主眼をどこに置くのか。そもそも発信に主眼を置くのか、大学生の地域への関心・関わりに主眼を置くのか。また、事業の継続性であったり。学生が地域と関わる最初の入り口として、その先の地域活動に染み出していくようにするのか等どのようなシナリオで事業を行うのか。単純に魅力発信だけだと成果資料はできあがるが、「青葉6大学連携事業」としてやる以上、長期的に見て地域と学生の接点づくりとしてやっていければ良いと思う。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>認知症は高齢者にとって避けられるなら避けたい病気の上位にあげられるため、高齢者の社会参加などの調査研究に実績がある桐蔭横浜大学と連携して、「シニアのためのところと身体健康調査」としてところと身体健康の両面から調査していきたいと考えている。昨年「認知症がいくつかの要因から導き出されるのではないか」というイギリスの研究結果が出ていて、「社会的孤立や喫煙、運動不足といった12くらいのリスクが考えられるのではないか」といったことも学会で発表されたりしていた。</p> <p>桐蔭横浜大学とは、そのようなリスク調査を青葉区でも実施し、今後の認知症発症リスクの低減につながる取組を作っていきたいと話している。青葉区民は喫煙率が低いとか、健康のために運動をしているなどと言われているので、青葉区民は認知症のリスクが低いといった数字が出るのではないかと期待している。</p> <p>具体的には現在詰めているが、地域ケアプラザと連携をして、下肢の筋力やバランス力といった身体調査を行うとともに、40～79歳の区民を対象に健康状態や幸福感、社会参加等についての項目でアンケート調査を行っていきたいと考えている。</p> <p>調査結果については、先行して全国調査が行われている事例との比較や桐蔭横浜大学が独自に行う全国調査との比較の中で、青葉区の良さやどの部分を強化していった方が良いのかを導き出せればと思う。</p>
中川区政推進課長	<p>「プロボノ実践講座」だが、これまではシニア層をターゲットということで、高齢・障害支援課が所管課であったが、青葉区には現役世代を含めスキルの高い人が多いため、ターゲットの年齢層を拡大し、事業を進めていくことになった。</p> <p>また、新たな活動者の掘り起こしを行っていくとともに、今のプロボノ講座参加者の経験談を外に発信していくことで、その声をより地域活動に広く生かしていきたいと思う。</p> <p>次に、「学生による区の魅力発信事業」だが、「魅力発信」と「学生たちの地域活動の参加」の両面があると考えている。学生たちが取材をし、学生の目線で別の新たな学生に刺さるような冊子を作成することで、学生向けの魅力発信を積極的に行っていきたい。また、地域に入るきっかけにもなると考えているので、今回参加する学生から意見をもらい、今後の地域活動への参加のきっかけ作りになるかも検討していきたい。</p>
鈴木地域振興課長	<p>「青葉ブランド事業」だが、令和元年度以降、募集・認定は行っていない。また意見交換会を実施し、店舗同士の連携を深めていこうと考えていたが、コロナ禍により令和元年度後半頃から意見交換会も実施できていない。</p> <p>今後については認定委員会の石坂浩二委員長などとも相談し、検討していきたい。今後まったく募集をしないということではないが、どのような形にしていくかについても改めて検討していきたい。</p>

横山議員	横浜DX戦略が始まって、市役所・区役所のネット環境が肝になると考えているが、青葉区役所のデジタル化についての課題はあるか。
馬淵副区長	区役所のDXについての課題だが、今回もWEBによる会議ができていたり、他区に比べ環境的には比較的整っていると思う。ただし、一方で職員の事務で使うネット環境については市役所に比べ遅れている部分もあるが、今回のDX戦略の中で示されているとおり、整理が進めば庁内のネット環境は一定程度整っていくと思う。 また市民サービスの点では、行政手続きのオンライン化の環境整備がまだまだといった部分があるので、デジタル統括本部との連携を図っていきたい。また環境が整っても区民に使ってもらわないとダメなので、区民に対するデジタルデバイド排除などの支援も継続して行っていきたい。
横山議員	横浜DX戦略の中では、全ての行政手続きをオンライン化していくことが目標とされているので、繁忙期における混雑などは、デジタル化が進めば大幅に改善されることが考えられる。現在は、窓口の混雑情報をインターネットで知らせることにとどまっているが、何か他にアイデアは無いか。
野添戸籍課長	戸籍の窓口において、利用の多い転出入の届け出がオンライン化とならなければ大きな変化は難しいと思うが、転出に関してはオンライン手続きができるようになっている。より広く区民にお知らせをしていきたい。
横山議員	25ページの「あおばスタート補助金」の内容は。
中川区政推進課長	現状の「あおば地域サポート補助金」を若干改変して実施するもので、基本的には地域活動を実際に始める方に活動の費用を補助するもの。「あおば地域サポート補助金」でも行っているが、2つコースがあり、一つは実際に活動を開始する団体に初期費用を補助するものと、もう一つは自治会町内会と連携して活動を行う団体に補助をするものである。
横山議員	26ページの「商店街お散歩まっぷ」だが、このご時世で散歩する人が多くなっているため、区内の魅力のある公園や場所を商店街と一緒に紹介することはできないのか。
鈴木地域振興課長	「商店街お散歩まっぷ」を広げると、商店街のおさんぽコースが載っている。このマップを作った目的の一つとして、今コロナ禍で商店街が厳しいこともあり、今年度の青葉区民マラソンの参加者の皆様に、ウォーキングやランニングの途中で商店街に足を運んでもらおうといった思いもあった。マラソンの参加者からは「商店街の支援はとて良い」といった声があったり、商店街からは「このような取組はありありがたい」といった声もあった。 福祉保健課でもウォーキングマップを作っているので、連携等を含め検討していきたい。
横山議員	区提案反映制度の「図書カード作成のための登録の際の非来館対応化」だが、青葉区に特化した内容であると思う。図書カードの更新は図書館に行かないとできないため、地区センターで図書の取次サービスができる青葉区では、日頃の貸し出しをしている地区センターではなく、わざわざ山内図書館まで行かなくてはならない。これが郵送でできるようになればとても便利になる。他区では、ほとんど図書の取次サービスをやっていないため、独自の仕組みを行っている青葉区にとってはとても影響の大きい提案となる。 しかし、中々区民に知られていないと思うので、広報をどのようにしていくのか。
吉田福祉保健センター担当部長	郵送受付の制度がようやくでき、スタートしていくため、広報よこはままでのお知らせや、実際に手続きを行う地区センターでもPRを行っていききたいと思う。 中央図書館でも電子図書の取扱いが始まっており、将来的には図書館に行かなくても本が読めるといった環境が整っていくと思うので、DX戦略も踏まえながら、教育委員会事務局と話し合いを重ねていきたいと思う。

横山議員	10年前の3月4日に、区役所近くの電線が工事車両に切断され、区役所機能が停止したことがあった。それをきっかけに区役所周りの電線の地中化が進み、ようやく地中化の工事が始まった。今後の工事についての見通しは。
鈴木青葉土木所長	現在土木事務所側を工事していて、来年度はNTTなど供給事業者の工事が始まり、令和6年度を目安に工事が完了するよう進めている。
横山議員	特に土木事務所側は正月に出初式をやるため、地中化が終われば空が開けて見ることができるのではないかと思うので、楽しみにしている。 最後に谷本公園の進捗状況は。
續橋地域まちづくり担当課長	谷本公園の用地買収の進捗状況だが、継続的に土地所有者に働きかけを行っている。今年度に関しては、約480㎡の土地を取得でき、未取得用地は0.73ha、あと13筆となっている。今後も環境創造局と協力して、残る土地所有者への交渉を精力的に進めていきたい。
山下議員	デジタル推進特別委員会でも話が出ているが、区役所のDXについては、経営責任職等の意識改革が重要と考える。色々なアイデアを出していくとか、どのような形で区民に還元していくのか等様々なアイデアを係長以下若い職員から出してもらった方が良いと思う。区長から声をかけることはできないか。
小澤区長	DX戦略推進においては、職員の意識改革が重要と言われているので、ぜひ若い職員に発破をかけたいと思う。局でも民間を含めたサポート体制ができると聞いているので、それも利用して、職員の意識改革を図っていきたい。
山下議員	11ページの「シニアのためのこころと身体の健康調査」だが、以前から青葉区や栄区において、厚生労働省の予算で千葉大学の教授による調査が行われていた。その調査などとのリンクはできるのか。
吉田福祉保健センター担当部長	JAGES（日本老年学的評価研究）の調査をしている教授にも、桐蔭横浜大学から声掛けをし、一緒に調査を進めるプロジェクトを作っていきたいと考えている。JAGESの調査については、健康長寿社会を目指した予防施策といった位置づけで、調査が行われている。今回認知症の予防の観点から調査対象を40歳以上とし、中年期からの社会活動や運動をどのように重ねてきたのかといったことも踏まえ、日常の行動や暮らしぶりが認知機能の低下リスクに繋がっているのかを、調査していきたい。 調査や調査終了後の分析については、JAGESのメンバーとも話し合いながら取り組んでいきたい。
山下議員	出てきたデータは政策に落とし込んでかなければならないので、調査だけでなく、その後の分析もしっかりやっていただきたい。 32ページの「学生による区の魅力発信事業」についてだが、日本体育大学と國學院大学の学生は寮に住んでいることが多く、卒業したら青葉区からいなくなってしまう。若い世代の声をどのように行政に反映させていくかや、若者の政治参画の意識をどのように高めていくのか、社会に関心をを持ってもらうことなどは、非常に大事である。青葉区を「住みつけたいまち」と掲げている以上、子どもたちに関心をを持ってもらうためには、今住んでいる学生に対し、アプローチをしていくことが必要になってくる。大学を通して行う方がやりやすいとは思いますが、既存の住んでいる学生に対しての関わりは考えているか。
中川区政推進課長	地域の若い学生へのアプローチについてだが、地域の若年層に対し、より区内の大学の魅力を発信することで、区内の大学を受験してもらうといった狙いも、魅力発信事業にはあると考えている。その結果区内の大学に通うことになれば、区内に残ることにつながる。そのため、区内の若年層に対してもっと広報していきたいと思う。

山下議員	青葉に住んでいる学生の参画の場も同時に作ってもらえればと思う。16ページの「ペット同行避難訓練」だが、実際に行われているのか。
前橋生活衛生課長	コロナ禍により、地域の防災訓練自体が中止となっていることが多く、ここ2、3年は「ペット同行避難訓練」もできていない。過去には7拠点ほどで「ペット同行避難訓練」を取り入れている。
山下議員	「ペット同行避難訓練」に関しては、ペットを飼っていない人と飼っている人の不満がぶつかってしまう部分がある。しっかりデータを取ってどのようにすれば訓練ができるか考えてもらいたい。青葉区は子どもの数よりペットの数の方が多いため、飼い主のマナーを含め、トラブルになることも多い。「ペット同行避難訓練」は双方の意見を伝える良い機会だと思うので、引き続き頑張ってもらいたい。
大貫議員	4ページの「青葉区国民健康保険特定健診受診率向上事業」だが、コロナのオミクロン株の流行の中で明らかとなっているのは、重症化するのは基礎疾患がある人が多い。そのような中ではとても大切な事業だが、現状の実績や向上率を上げていく手立て、予算の中身などを教えてもらいたい。
飯田福祉保健課長	コロナ禍で病院に行くことを躊躇する方が増えていることもあるが、特定健診は健康づくりの中の一つの柱として、大変重要なものである。健康福祉局で行っている「健康横浜21」でも周知しているが、区役所としても引き続き、医師会と連携し、「コロナ禍であっても安心して病院に来てください」といったことを周知していきたい。 周知の方法としては、引き続き、40歳以上の人を対象にダイレクトメールを送ったり、広報よこはま等を通じて行っていく。
大貫議員	受診率の推移はどうか。年々上がっているのか、コロナの関係で下がっているのか。また、対象者がどれくらいいるのかのデータも欲しい。
飯田福祉保健課長	特定健診の受診率は、令和3年6月現在で26.4%、対前年比で0.5%増加している。
大貫議員	受診率が26.4%ということについては、どのようにとらえているか。
飯田福祉保健課長	もちろん100%が良いわけだが、市全体の受診率約25%に比べ、青葉区は健康へに意識も高いためか、多少は高くなっている。
大貫議員	現在の予算額はとても少ないが、この問題はとても大事なため、もし他の予算を削って持ってくるできないなら、きちっと医療機関と協力して進めていってもらいたい。 オミクロン株に対するワクチン3回目の接種券が配られ始め、今回から区役所で予約代行を行うと聞いた。非常に良い施策だと思うが、人員の手立ては大丈夫か。
守屋総務課長	区役所で代理で行う予約については、健康福祉局が契約した業者が対応し、現在、区役所の1階で5名の担当者が対応している。

大貫議員	<p>高齢者にとっては助かるので、区役所で予約代行を行っていることをもっと周知してもらえれば。</p> <p>34ページの「青葉環境エコ事業」における「脱炭素化啓発事業」についてで、温暖化対策統括本部でも色々やっているが、やはり区で取り組むことは大事だと思う。新規事業として計上されている20万円で、何をやろうとしているのか。</p>
中川区政推進課長	<p>区の予算は20万円だが、その他に温暖化対策統括本部から「脱炭素化プラス事業」として区配される予算と合わせ、執行していく予定。脱炭素化としては、まず区民の皆さんに意識をもってもらい、取り組んでもらうことが大事であり、区内企業と連携してイベントを開催する予定である。東急株式会社や三菱ケミカル、無印良品等とも連携し、脱炭素化の啓発につながるようなイベントを開催していきたいと思う。</p>
大貫議員	<p>区をあげて、温暖化対策統括本部と一緒に、脱炭素化に対応していく姿を出していかなければならないと思っている。その意味では全体の予算のトップに置くくらいの重要な施策だと思う。例えば、区役所の壁面に脱炭素化に向けた幕を出すであるとか、区役所が積極的に取り組んでいる姿を出すことが重要であると思う。</p>
小澤区長	<p>区が脱炭素化に積極的に取り組んでいることを示すことは、非常に大切だと思う。青葉区はもともと「青葉環境エコ事業」ということで様々なことをやってきたが、「脱炭素化」という新たな目標に向かっても取り組んでいるということ、横断幕は難しいかもしれないが、積極的に見せていく工夫を考えていきたい。</p>
大貫議員	<p>ぜひ横断幕を作ってください。可視化することは非常に重要。</p> <p>最後に、「高速鉄道3号線の延伸」により、将来青葉区のまちが大きく変わることが予想される。今後コロナ禍を経て、青葉区のまちづくりの方向性を考える予算も必要ではなかったか。</p>
小澤区長	<p>高速鉄道3号線の延伸により、新駅周辺の交通体系について、検討を進めていると聞いています。それに沿ってまちづくりの検討をすることは必要だと思う。</p> <p>延伸はまだ先だが、検討に必要な予算については、今後、局と調整しながら確保したいと思っている</p>
平田議員	<p>21ページの「区役所でのフードドライブの食品受付」だが、どれくらいの頻度で実施しているのか。また受付場所はどこになるか。</p>
小牧資源化推進担当課長	<p>3月から、区役所と資源循環局青葉事務所の2か所で新たに常設で実施する。区内の民間企業、イトーヨーカドーや生活協同組合ユーコープ、無印良品等でも実施されている。</p>
平田議員	<p>集まった食材は、子ども食堂など、区内で循環する仕組みになっているのか。寄付先はどこか。</p>
小牧資源化推進担当課長	<p>集まった食材は区の社会福祉協議会を通じ、必要な場所に支援していくことになっている。</p>
平田議員	<p>コロナ禍で困窮する人も多く、とても大事な取組だと感じている。食の支援をきっかけに福祉的な相談の入り口にもなるため、福祉部署とも連携し、ぜひフードドライブを広げていってほしい。</p>

田中議員	同じく21ページの「区役所でのフードドライブの食品受付」だが、区役所内の回収場所と広報方法を教えてもらいたい。また、人員の確保はどのようにされているのか。
小牧資源化推進担当課長	フードドライブの実施場所だが、区庁舎の4階地域振興課前のエレベーターホールに受付ボックスを設置する。資源循環局青葉事務所では、窓口で受け取る。広報よこはま3月号で案内する予定。限られた人員ではあるが、事務所と連携する等、工夫して進めていきたい。
田中議員	33ページの「あおば地産地消の推進」の「地産地消を身近に感じるイベント」とはどのようなものか。
中川区政推進課長	収穫体験を検討している。地域の農家に協力してもらい、小学生を中心として収穫体験を行い、身近に地産地消を感じてもらえるような取組を計画している。